

■ 目 次 ■

2 事業の概要

1. 平成 22 年度事業概要	17
2. 最近 5 ヶ年の入試結果	26
3. 過去 5 ヶ年の薬剤師国家試験結果	28
4. 平成 22 年度学位授与者数	28
5. 平成 22 年度就職・進学状況	29

2 事業の概要

1. 平成 22 年度事業概要

1 創立 100 周年記念事業の準備、推進

(1) 星薬科大学歴史資料館の整備と医薬品化学研究所の改修

① 計画

本館 3 階の『星一記念室』所蔵の歴史的資料を広く一般に供するため、来訪者の利便性の高い医薬品化学研究所 1 階に移転し、新たに『星薬科大学歴史資料館』として整備し、再出発する。これに伴い医薬研の玄関ホールを拡張し、旧理事室と資料室等を統合し一体化する。

② 実績

設置場所である医薬品化学研究所 1 階の改修工事は平成 23 年 1 月 20 日に着工し、同年 4 月 20 日に竣工した。資料館内のレイアウト等について委員会で検討した。開館は 5 月 21 日(土)が初日である。

(2) 創立 100 周年記念事業の準備

① 計画

平成 23 年度に迎える創立 100 周年に向けて、記念事業の具体的な準備作業を計画、推進する。

② 実績

(ア) 創立 100 周年記念式典等の準備

平成 23 年 5 月 1 日(日)のチャリティーコンサート開催に向け、同窓会に企画運営を委託した。案内ポスター及びチラシを作成し、共催の品川区の掲示板・文化施設等に掲示、配布した。また、チケットの販売を本学生生活協同組合で行った。

同年 5 月 28 日(土)の式典、講演会、祝賀会のプログラム及び会場設営等の企画・準備を行った。

記念品として配付予定の 100 周年記念写真集の編集作業を進めた。

(イ) 創立 100 周年記念事業募金

新学生ホール(「百年記念館」と命名)の建設、星薬科大学奨学金制度の充実、星薬科大学歴史資料館の整備を目的に募金を行った。

(ウ) 校旗、国旗の作製

創立 100 周年を機に校旗を新調した。校旗の色は、本学の校花である「ムラサキハナナ」の色を参考にした。また併せて、本館、正門等に掲揚する国旗を新調した。

(エ) 創立 100 周年記念ロゴマークの作成

創立 100 周年を学内外に効果的にアピールするため、記念ロゴマークを作成し、HP、印刷物等へ掲載した。

2 教育・研究環境の整備

(1) 病院・薬局実務実習の実施

① 計画

病院実習受入機関 50 施設、薬局実習受入機関 91 施設において、216 名の実務実習を契約どおり実施する。

② 実績

契約に基づき、病院実習は 50 機関 50 施設、薬局実習は 95 機関 129 施設において、215 名の実務実習を実施した。

第 1 期病院・薬局実務実習及び一部病院の第 2 期実習を終了した学生が発表する「平成 22 年度第 1 回実務実習報告会」を平成 22 年 10 月 23 日(土)に開催し、病院及び薬局から 80 名の参加者を得た。また、「事前実習見学会」を平成 22 年 10 月 27 日、28 日及び 11 月 9 日、11 日に契約病院の薬剤師を対象に行い 50 名の参加者を得た。

(2) 新情報ネットワークの完成と運用

① 計画

現行ネットワークシステムの契約終了に伴い、新ネットワークシステムを管理運営形態も含めて構築し、合理的に運用する。

② 実績

計画どおりデータセンター利用を廃止し、情報ネットワークの更新工事を行い、9 月 20 日に全ての設備の切り替え工事が完了した。年間約 2 千万円の経費削減となった。現在順調に稼働している。

(3) 新設大学院・総合薬科学専攻のスタート

① 計画

大学院薬学研究科修士課程(総合薬科学専攻：入学定員 16 名、収容定員 32 名)をスタートさせる。入学初年度納付金は、本学からの入学者は入学金免除、授業料 80 万円、他大学からの入学者は入学金 10 万円、授業料 80 万円とする。

② 実績

新薬学教育制度における 4 年制課程「創薬科学科」を基礎とする大学院薬学研究科修士課程「総合薬科学専攻」を開設し、27 名が入学した。

(4) 新学生ホール(仮称)の運用

① 計画

新学生ホール(「百年記念館」と命名)が、利用者にとって福利厚生面で利便性が高く、効率の良い施設であるよう運用し、所期の目的を果たす。

② 実績

6年制移行後、5年生が初めて誕生した平成22年4月より、本格的に施設の運用が開始された。講義及びゼミで使用された他、薬剤師生涯学習支援室の講演会も開催されている。1階のホール及びテラスは学生の昼食、コミュニケーションの場所として活用されている。可動間仕切りのある講義室では使用人数に応じた効率的な施設利用がされている。各部屋には個別空調システムが導入され、効率的なエネルギー使用を実現している。また、1階入口に薬学のシンボルマーク「ヒギエイアの杯」を設置し、10月26日に除幕式を行った。

(5) 新学生ホール(仮称)への移転に伴う空室等の整備

① 計画

7号館の自治会室及び揺籃会事務室、並びに本館の同窓会本部室等の新学生ホール(「百年記念館」)への移転に伴い発生する空室について、教室又は部室等への転換整備を行なう。

② 実績

7号館の空室は、クラブの部室として整備し、貸与した。本館の空室は、新5年生の誕生に伴い不足するロッカー室として、暫定的に使用した。今後の使用については整備計画を策定中である。

(6) 建物の維持保全

① 計画

建物・設備について、耐久性向上及び省エネルギーを考慮した補修、設備更新等を行う。

② 実績

本館屋上ドームの漏水防水工事及び本館正面スロープ3階天井の塗装補修工事を実施した。また医薬品化学研究所及び6号館のエレベーターを更新した。

(7) 補助事業の推進

① 計画

次の補助事業等を推進する。

(ア)平成19年度に採択され、5ヵ年計画の4年目を迎える文部科学省

オープンリサーチセンター整備事業

研究プロジェクト名：「血管新生治療戦略におけるターゲット・バリデーションと先端的創薬研究」

(イ)平成20年度に採択され、5ヵ年計画の3年目を迎える文部科学省

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

研究プロジェクト名：「現代人の抱える疾患による脳高次機能変化に関する薬学的研究」

② 実績

補助事業は計画どおり推進した。私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の平成 22 年度中間評価結果が通知され、2 名の委員の評価は、A 及び B であった。同事業の平成 22 年度研究成果報告会を 3 月 4 日に開催した。

(8)創薬科学研究センターの活性化

① 計画

平成 20 年度に採択され、3 ヶ年計画の最終年を迎える独立行政法人医薬基盤研究所の保健医療分野における基礎研究推進事業を推進し、創薬科学研究センターの活性化を図る。

総括研究代表者：井原 正隆 特任研究員(教授相当)(原虫疾患研究室)

研究プロジェクト名：「熱帯・亜熱帯原虫疾患アフリカおよびアメリカ・トリパノソーマ治療薬の開発」

② 実績

補助事業を計画どおり推進し、創薬科学研究センターの活性化を図った。

(9)国際交流の推進

① 計画

現在、姉妹校または学術交流協定関係にある北京大学、テキサス大学、アイルランガ大学、チュラロンコーン大学、ウプサラ大学、プトラ大学及びその他の外国諸機関との学術交流を一層推進する。

② 実績

教員間の共同研究等を通して国際交流を推進した。

3 産官学連携の推進

① 計画

教育研究及び大学経営の活性化等を図るため、産官学の連携を推進する。

② 実績

平成 22 年 5 月に山梨大学と、また平成 23 年 2 月に東京慈恵会医科大学と学術交流の協定を締結したことが報告された。平成 22 年 9 月には山梨大学と第 1 回医薬連携合同シンポジウムを同大学にて開催した。

4 広報活動の強化

(1)入試広報活動の強化

① 計画

十分な入学希望者を確保するため、ホームページ等を利用した情報発信及び入試相談会等を活発に行う。

② 実績

ホームページ及びオープンキャンパス等を利用した情報発信に努めたほか、入試に係る説明会、相談会等を次のとおり実施した。また、本学の最寄り駅の1つである東急武蔵小山駅行先表示器に看板広告を本年も継続して掲出した。

- (ア) 高等学校及び予備校教員に対する入試説明会を6月2日(水)に開催し、90校94名の参加を得た。
- (イ) オープンキャンパスを7月10日(土)、8月2日(月)・3日(火)、8月20日(金)に開催し、合計で高校生等2,237名、同伴父母等1,009名の参加を得た。
- (ウ) 10月31日(土)及び11月1日(日)の学園祭開催時に「入試相談室」を設置し、受験生等の入試相談に対応した。
- (エ) 外部の進学相談会に4月から11月にかけて参加し進学相談にあたった。平成22年度は、東京都15箇所、神奈川県4箇所、埼玉県3箇所、千葉県2箇所、群馬県1箇所の計25箇所で行った。

(2) 高大連携の促進

① 計画

文部科学省の高大連携事業に積極的に参加する等、高校生の薬学に関する関心を喚起する。

② 実績

神奈川県立柏陽高等学校の薬学志望の生徒を対象に、「薬学への招待2010」と題して体験講義、体験実習等を6月26日(土)に本学において行い、37名の生徒が参加した。

5 学生支援活動の強化

① 計画

学生の幅広い就業の機会の拡大を図るため、受入れ側との情報交換を一層密に行う。

② 実績

- (ア) 年6回の就職ガイダンスの中で企業説明会を2回開催し、製薬メーカー、病院、調剤薬局等113団体の参加を得た。
- (イ) 頻繁な企業訪問による学生の負担増の軽減と企業研究を目的に、学内で昼食を取りながら企業担当者から説明を受ける「ランチョンセミナー」を1社ごとに実施し、19社の参加を得た。
- (ウ) 9月15日(水)に内定先及び有力企業等の人事担当者等を招き本学教員との就職懇談会を開催し情報交換を図った。83社、125名の参加があった。
- (エ) 9月25日(土)に、主に製薬メーカーの研究開発職を対象とした「首都圏薬学部合同・企業研究フォーラム2010」を他の5大学と共催し、本学は118名(大学院23名、学部95名)の学生が参加した。

- (オ)夏期研修見学(短期インターンシップ)を7月31日～9月13日に実施し、3年、4年及び5年次生を中心に、延べ244名(学部学生の18%)が参加した。
- (カ)全学年を対象に、公務員試験対策講座を年2回、外部業者に委託して開講し、延べ84名の参加を得た。
- (キ)就職におけるTOEICの重要性に鑑み、TOEICテストを例年どおり学内で年3回実施し、一定の成績に達した者には受験料を全額補助する等の支援を行った。

6 社会貢献

(1)公開講座の開催

品川区との共催による公開講座をつぎのとおり開催し、地域住民等に対して学習、教育の場を提供した。

(ア)「先端科学創造シンポジウム」講演会シリーズ<14>

日 時：平成22年5月21日(金)13:30～15:00

テ ー マ：「肥満症／メタボリックシンドロームと市民生活」

講 師：京都大学 内科学講座 教授 中尾 一和 先生

(イ)春の薬草見学会

平成22年5月15日(土)

<第一部>キャンパスツアー 11:00～12:00

見学場所：星一記念室、壁画、メインホール等

案 内：生協学生委員

<第二部>講義・薬草見学 13:00～16:30

講 義：「香辛料にする植物」南雲 清二 教授(本学薬用植物園園長)

「伝統薬と動物生薬」清水 虎雄 先生

(救心製薬(株)薬事部長、元東京都薬用植物園園長)

薬草見学：学生による案内(植物化学研究部員)

(2)星薬科大学生涯研修認定制度の強化拡充

① 計画

『一般社団法人薬剤師認定制度認証機構』が定める生涯研修認定制度の一環として、本学が各種研修等を実施し、もって社会貢献を果たす。

② 実績

本学は、平成21年6月に薬剤師認定制度認証機構より生涯研修認定制度の実施機関として認証され、平成22年4月から薬剤師生涯学習支援室にて本格的に運用を開始した。開講講座には毎回多数の参加者を得ている。平成22年度は、申請に基づく審査の結果、認定薬剤師証を2名に交付した。平成22年度の開催日数は以下のとおりである。

【主 催】

薬剤師生涯学習コース

「講演会シリーズ」：7日間開催

「リフレッシュセミナー」：10日間開催

社会人大学院受講コース：前期 24 講座、後期 21 講座開講

生涯教育講座：2日間開催

【共催等】

同窓会地方研修会等：6日間開催

(3)薬用植物園の公開と推進

① 計画

薬用植物園の公開を継続して推進し、社会貢献を果たす。

② 実績

本学薬用植物園の情報発信と薬用植物に関する学生の教育に努めた。また公開講座等を通じて薬用植物に関する啓発・啓蒙に寄与した。

(ア)学外見学者：個人見学者 657名(記名分)

(イ)導入・分譲植物種類数：

導入(市販品 5 自生品 1 栽培機関 16 外国 2種)；分譲(6種)

(ウ)園内整備：

大きくなりすぎた樹木の大規模剪定(ヒノキ、チャンチンモドキ、イヌニッケイ、タブノキ、メタセコイヤ、シナアブラギリ)

(エ)研修会・社会活動

・公開講座「薬草見学会」(品川区共催)

5月16日 園内見学参加者 133名、薬草案内植研部員 48名

・漢方薬・生薬認定薬剤師研修会(日本薬剤師研修センター主催)

薬草園実習6月5日 受講生 20名

10月9日 受講生 20名

・社会教育(講師派遣依頼を含む)

東京都第8回薬草教室「キナ物語」

6月23日実施 受講 130名

・インターンシップ学生受け入れ

法政大学生命科学部より 1名(平成22年8月30日～9月10日)

同上 (平成23年2月21日～3月4日)

(オ)マスコミ取材等

・ラジオ J-wave「薬草」(平成22年10月15日放映)

(カ)紹介記事等

・「大学ランキング 2011 年版(日本の大学 746 校完全ガイド)」

朝日新聞出版発行 博物館自然科学系において本園が東海大学自然史博物館に次ぐ全国第 5 位として紹介された。

7 収益事業の調査検討

(1)調剤薬局設置の調査検討

① 計画

本学のブランド及び薬学教育効果向上等のため、調剤薬局の設置を継続して調査検討する。

② 実績

調剤薬局の設置を調査し、可能性を検討した。

(2)知的財産活用の調査検討

① 計画

学内及び他機関との共同研究によるシーズの発掘とその活用を継続して調査検討する。

② 実績

知的財産管理委員会等にて知的財産の活用を検討した。

8 (財)大学基準協会の大学評価(認証評価)受審

学校教育法に基づき、(財)大学基準協会に大学評価の申請をし、平成 22 年 10 月に評価委員による大学実施視察を受けた。平成 23 年 3 月 11 日付けで評価結果が通知され、本学は同協会の大学基準に適合していることを認定された。認定期間は、2011(平成 23)年 4 月 1 日から 2018(平成 30)年 3 月 31 日までである。

9 副理事長及び常務理事選任

寄附行為第 9 条に定める副理事長に大谷利勝理事を、また常務理事に榎並洋介理事を選任した。

10 寄附行為第 7 条第 1 項第 3 号理事(学識経験者)選任

学識経験者理事として、評議員の梶野 忠氏(元神奈川県環境農政部技監)を選任した。

11 評議員改選

任期満了に伴う評議員の改選が行われ、学校法人星薬科大学寄附行為に基づき 1 号評議員 1 名、2 号評議員 9 名、4 号評議員 10 名及び 5 号評議員 5 名が選任された。任期は平成 23 年 4 月 1 日から 4 年間である。

12 大谷記念研究助成金の授与

平成 22 年度標記助成金の受賞者として次の 3 名が選考され、授与式が 5 月 22 日に行われた。

(ア)津吹 政可 教授(生体分子有機化学研究室)

研究課題「タンパク質翻訳阻害作用機構に基づく新規ながん治療薬の創製」

(イ)山崎 正博 准教授(衛生化学教室)

研究課題「肥満に伴うケトン体代謝の変動がもたらす組織機能障害への寄与」

(ウ)大澤 匡弘 講師(薬物治療学教室)

研究課題「有痛性糖尿病神経障害時に見られる感覚異常に対するシンバスタチンの治療効果」

13 ハラスメント予防講演会開催

教職員、大学院学生等を対象に、ハラスメント予防講演会を平成 22 年 12 月 15 日(水)に開催した。

講師：弁護士 横山 幸子 先生

演題：「キャンパスにおけるハラスメントの防止について」

14 ファカルティー・ディベロップメント(FD)講演会開催

教員を対象に、ファカルティー・ディベロップメントに関する講演会を平成 23 年 3 月 9 日(水)に開催した。

講師：国立教育政策研究所 川島 啓二 先生

演題：「危機に立つ大学教育と F D の役割」

15 教育情報の公開

平成 22 年 4 月 1 日付施行の学校教育法施行規則等の一部改正に伴い、講師以上の教員の研究業績等を HP 上で公開した。

16 規程の整備

主に次の規程を整備した。

(ア)学校法人星薬科大学エネルギー管理規程制定

(イ)施設利用規程一部改正

(ウ)星薬科大学学則一部改正

(エ)星薬科大学授業料等未納者に係る除籍及び復籍に関する内規一部改正

(オ)星薬科大学学生表彰規程一部改正

2. 最近5ヶ年の入試結果

【推薦入学選考（一般公募制）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
平成 23 年度	薬学科(専願)	80	295(204)	294(204)	84(55)	84(55)	3.5
	薬学科(併願可)	20	219(172)	215(171)	83(71)	40(33)	2.6
	創薬科学科(併願可)	4	32(17)	32(17)	14(9)	5(3)	2.3
平成 22 年度	薬学科(専願)	80	231(168)	230(168)	84(68)	84(68)	2.7
	薬学科(併願可)	20	290(227)	284(222)	92(77)	48(40)	3.1
	創薬科学科(併願可)	4	42(25)	42(25)	20(10)	7(5)	2.1
平成 21 年度	薬学科(専願)	80	304(232)	300(229)	93(71)	93(71)	3.2
	薬学科(併願可)	20	234(192)	230(188)	101(84)	48(42)	2.3
	創薬科学科(併願可)	4	48(19)	46(19)	22(8)	16(7)	2.1
平成 20 年度	薬学科(専願)	80	388(268)	382(265)	103(71)	103(71)	3.7
	薬学科(併願可)	10	172(119)	169(117)	44(31)	15(9)	3.8
	創薬科学科(併願可)	5	25(11)	25(11)	12(7)	10(6)	2.1
平成 19 年度	薬 学 科	90	355(249)	352(246)	114(87)	114(87)	3.1
	創薬科学科	10	21(11)	21(11)	13(7)	13(7)	1.6

() 内は女子内数

【一般入試（A方式：大学入試センター試験利用）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
平成 23 年度	薬 学 科	10	862(530)	860(530)	134(83)	11(4)	6.4
	創薬科学科	4	116(58)	116(58)	23(13)	3(1)	5.0
平成 22 年度	薬 学 科	10	802(496)	796(492)	122(80)	2(1)	6.5
	創薬科学科	4	104(44)	102(43)	22(8)	1(0)	4.6
平成 21 年度	薬 学 科	10	784(476)	776(472)	115(73)	4(1)	6.7
	創薬科学科	4	129(52)	128(52)	18(7)	1(1)	7.1
平 成 20 年 度		10	934(541)	928(540)	124(73)	14(5)	7.5
平 成 19 年 度		10	732(445)	726(440)	103(71)	1(1)	7.1

() 内は女子内数

【一般入試（B方式：本学実施試験利用）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
平成 23 年度	薬 学 科	120	1,549(897)	1,491(866)	336(179)	131(65)	4.4
	創薬科学科	8	143(55)	136(52)	56(21)	13(6)	2.4
平成 22 年度	薬 学 科	120	1,490(895)	1,448(876)	377(231)	118(69)	3.8
	創薬科学科	8	171(63)	162(60)	58(20)	18(4)	2.8
平成 21 年度	薬 学 科	120	1,622(941)	1,556(915)	280(154)	99(56)	5.6
	創薬科学科	8	153(48)	142(47)	60(14)	20(5)	2.4
平成 20 年度	薬 学 科	120	1,739(975)	1,674(939)	384(217)	115(72)	4.4
	創薬科学科	10	131(48)	126(46)	70(27)	28(15)	1.8
平成 19 年度	薬 学 科	160	1,651(906)	1,589(871)	358(189)	152(73)	4.4
	創薬科学科	10	215(78)	210(76)	73(28)	21(7)	2.9

() 内は女子内数

【一般入試（S方式：本学実施試験利用）】

年 度		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
平成 23 年度	薬 学 科	30	426(245)	368(215)	97(57)	24(15)	3.8
	創薬科学科	4	59(17)	54(16)	20(5)	7(4)	2.7
平成 22 年度	薬 学 科	30	474(279)	406(240)	85(48)	16(10)	4.8
	創薬科学科	4	68(20)	59(17)	15(3)	1(0)	3.9
平成 21 年度	薬 学 科	30	342(214)	289(183)	79(43)	23(13)	3.7
	創薬科学科	4	63(22)	60(21)	15(2)	4(0)	4.0
平成 20 年度	薬 学 科	40	392(224)	338(190)	80(35)	24(10)	4.2
	創薬科学科	5	46(17)	40(15)	16(5)	0(0)	2.5

() 内は女子内数

3. 過去 5 ヶ年の薬剤師国家試験結果

【新 卒】

年 度	受験者数	合格者数	合格率	順位
平成 21 年度(第 95 回)	25	19	76.00%	2(私立 45 大学中)
平成 20 年度(第 94 回)	264	256	96.97%	2(私立 45 大学中)
平成 19 年度(第 93 回)	273	252	92.31%	10(私立 38 大学中)
平成 18 年度(第 92 回)	295	266	90.17%	12(私立 31 大学中)
平成 17 年度(第 91 回)	246	223	90.65%	9(私立 29 大学中)

【総 数】

年 度	受験者数	合格者数	合格率	順位
平成 21 年度(第 95 回)	72	46	63.89%	25(私立 45 大学中)
平成 20 年度(第 94 回)	318	282	88.68%	8(私立 45 大学中)
平成 19 年度(第 93 回)	337	290	86.05%	13(私立 38 大学中)
平成 18 年度(第 92 回)	353	299	84.70%	12(私立 31 大学中)
平成 17 年度(第 91 回)	304	251	82.57%	9(私立 29 大学中)

4. 平成 22 年度学位授与数 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

区分	人数
課程博士	6 名
課程外博士	6 名
修士	76 名
学士	36 名
合計	124 名

5. 平成 22 年度就職・進学状況

(平成 23 年 3 月 31 日現在) (人)

			旧課程		計	創薬科学科		M2		D3		大学院計	総計	
	男	女	男	女		男	女	男	女					
内 定	製造販売業	MR				2	2	7	3			10	12	
		営業								1		1	1	
		研究							4	2	2		8	8
		開発								1			1	1
		研究開発							2	1			3	3
		学術・薬事							1	1			2	2
		総合職								1			1	1
	その他	研究								1			1	1
		開発												
		研究開発												
先	卸売業								1			1	1	
	ドラッグストア							1				1	1	
	調剤薬局							1			1	2	2	
	病院							8	13	2		23	23	
	CRO・SMO							5				5	5	
	教育・研究						1	1	1	1		2	3	
	国家公務員													
	地方公務員						1	1	2	5	3		8	10
	独立行政法人									3			3	3
	その他													
就職決定学生数						3	2	5	35	32	4	1	72	77
※ 就職率 %						100	67	83	100	100	100	100	100	95
進 学	大学院					14	13	27	7			7	34	
	専攻生・研修生													
	病院研修生									1		1	1	
	ポスドク・留学										1	1	1	
	医・歯学部													
※ 進路決定学生数			0		0	17	15	32	42	33	5	1	81	113
進路決定率 %			0		0	100	94	97	100	100	100	100	100	97
進路未定学生数			3		3	0	1	1	0	0	0	0	4	
進路未定率 %			100		100	0	6	3	0	0	0	0	3	

調査対象学生数 117

[内訳] 旧課程 4 年 3 (男 3) : 創薬科学科 4 年 33 (男 17、女 16)

M2 75 (男 42、女 33) : D3 6 (男 5、女 1)

※ 就職率 = 就職決定学生数 ÷ (総数 - 進学) ※ 進路 = 就職 + 進学